



# 1 びわ南小学校水生生物調査隊について

本校の水生生物調査隊は、4年生全員33名で活動しています。1学期と2学期の総合的な学習において、学区内の姉川（難波橋下流100m付近）と学区内を流れる姉川の上流である草野川を調査し、水環境についての学習を行いました。



## 2 調査結果について

### ① 姉川（難波橋下流100m付近）



6月14日に運動場北側にある姉川（難波橋下流100m付近）に調査に出かけました。前日までの雨によって増水していました。この日は、親子活動で、お家の人と一緒に川の生き物調べをしました。

元びわ南小学校の校長先生をしておられた八木善勇先生と湖北野鳥センターの植田先生に講師を依頼し、調査の前に水生生物を調査する目的や生き物を上手につかまえる網やザルの使い方などを教えていただきました。

右の写真の姉川（難波橋下流100m付近）は、前日までの雨により増水が心配されましたが、川幅が4m、水深70cmほどでした。思った以上に多くの水生生物や魚をとることができました。

採取した生き物は、その場でグループごとに種類分けをしてトレイに分類しました。



結果は、以下の通りです。

- 一番多くとれたのは、トビケラ類だった。
- ヘビトンボ類、サワガニはきれいな水にしかすまない。
- 生き物が多くとれた。
- ヨシノボリやドンコ、カワムツもとれた。

結果を分析すると、総合的に見て、姉川（難波橋下流 100m 付近）の水は、とてもきれいな水だということがわかりました。



### 【児童の感想から】

○調査の前はどのような生き物があるか全くわからなかったけれど、川に入ってみるとたくさんの生き物が出て、とても楽しかったです。八木先生や植田先生にいろいろな生き物の名前を教えてくださいました。すんでいる生き物の種類で川のきれいさがわかるなんてすごいなと思いました。これからもたくさんの生き物に出会いたいです。

○みずすまし調査で、姉川の水はきれいだと知りびっくりしました。わたしは魚しかつかまえられなかったけれど、友達がたくさんの水生生物をつかまえてくれたので、いろいろな生物の名前や特徴を知ることができました。先生に水生生物がかくれている場所やとり方のコツなどを教えてもらいながら調査して、とても楽しかったです。

## ② 草野川上流

10月3日の「やまのこ学習」では、高山キャンプ場内の草野川上流の生き物調べを行いました。草野川は校区を流れる姉川の上流でもあります。天候 曇り、気温は



27℃、水温は 19℃と低く、川に入ると気持ちよかったです。自然に囲まれた中で大きな石や砂利があり、少し深くなっているところや浅くて流れが速いところなど、さまざまでした。石をめくると、多くの水生生物が簡単に見つかり、びっくりしました。



グループごとに集めた水生生物を持って、キャンプ場にもどり、生き物集計シートと照らし合わせて分類しました。その結果次のような結果がみえてきました。

・トビケラ類、カゲロウ類、カワゲラ類、ヘビトンボなどきれいな水にすむ生き物が、30分間でなんと140匹もとれました。そのうちカゲロウ類は46匹もとれました。結果を分析すると、草野川上流は予想通り「きれいな水」の川であることがわかりました。



### 3 まとめ

○水生生物調査は初めてという児童が多く、そこにすむ水生生物の種類を調べることで、川がきれいかどうかわかることに興味を持った児童が多く見られました。また、1回目の調査は、八木先生と植田先生に専門的な立場からお話をしていただいたことで、より一層有意義な活動ができました。

○今年も、姉川（難波橋下流 100m）を調査したことで、「やまのこ学習」での草野川の調査を通して、姉川の上流と下流の周辺の環境や生き物、水のきれいさなどを比較することができ、とてもわかりやすかったです。

○12月に行われたびわ地区の活動発表会では、希望した代表児童8名が、たくさんの方の前で発表しました。学年全体で発表を聞いてアドバイスしたり、聞きやすい話し方を考えたりしたことも含め、代表児童にはよい経験の場となりました。

